CONNECTIONS
在学生 X 卒業生 X 教員

02 文学部

その絆が、未来をつなぐ。

どうしてもこれを知りたい、学びたい。
あなたには何よりも極めたい“好きなこと”がありますか。
文学部歴史文化学科歴史学研究コースには、
奈良・天理という立地や、附属施設を最大限に活用しながら、
好きな勉強に熱中できる環境があります。

昔の出来事と今がつながる瞬間。その奥深さに、魅了されて。

—まずは、それぞれの研究テーマやお仕事を教えてください。

岡島：王寺町で文化財学芸員として、勤務しています。文化財の保存と活用に関連して、発掘調査や古文書の調査を行っています。町内にある文化財の調査研究のほか、講座の企画などを通じ、文化財を多くの人に知ってもらうための仕事をしています。私の研究テーマは、大和川におけるモノの流通です。在学生の大嶋さんは、どのようなテーマを研究していますか。

大嶋：近江北部の戦国武将である、浅井長政を研究しています。特に卒業論文では、浅井長政が織田信長に滅亡させられた要因のひとつに家臣の寝返りが多くあったことについて考察しました。歴史学に興味を持った最初のきっかけは、高校生のときに見た歴史物のドラマです。最初はミーハーな理由でしたが、ネットや本で調べるうちに浅井長政に魅了され、もっと勉強したくて天理大学に入学しました。

天野：私もミーハーな理由です。小学校のときに見た時代劇『忠臣蔵』で、大石内蔵助役の役者が格好良かったことが、歴史に興味を持った最初のきっかけでした。現在は、大河ドラマの『麒麟がくる』にも登場した三好長慶や松永久秀など、織田信長以前に近畿地方を支配していた武家を研究しています。信長は非常に画期的で革命児であると、プラスのイメージで語られることが多いですが、何と比較しているのかよく分からない面もあります。それ以前と比較して本当にそうなのか、三好や松永から信長に継承されたものや、信長が2人を乗り越えて新しく創り出したものについて研究しています。

—歴史学のおもしろさや醍醐味は、どのようなところにありますか。

岡島：昔のことを調べていると、今とつながることがあります。過去があるからこそ現在の状況があるのだと実感できるところが、歴史学の大きな醍醐味だと思います。例えば、私が勤務する王寺町は非常に小さな街ですので、古文書を読んでいると、現在のどこの家の人物なのかがよく分かります。それを踏まえて、今の家の人が置かれている状況と歴史とのつながりが見えるのが非常におもしろいですね。

大嶋：私の卒業論文では、織田信長に家臣団が流れたのは、近江の守護であった京極氏の悲観な性格が招いたと結論づけたのですが、こうした何十年前のひとつの性質が未来につながっていくことにおもしろさを感じます。

天野：戦国時代はものすごく殺伐としていて、現代人からすると、別の日本人に思えるくらいです。そうした全く違う価値観を知ることができると同時に、同じ人間として、平和や安定を求め悩んでいた彼らの生き様を垣間見ることができるのがおもしろいと感じます。

大嶋 紫蓮さん

好きなことを、とことん つきつめる。

過去があるからこそ、今がある。その実感が大きな醍醐味です。

【座談会メンバー】
[教　員]天野 忠幸 准教授（文学部 歴史文化学科 歴史学研究コース）
[在学生]大嶋 紫蓮さん（文学部 歴史文化学科 歴史学専攻 4年次生）
（ビデオ会議で参加）
[卒業生]岡島 永昌さん（王寺町役場地域整備部 地域交流課
文化資源活用係 係長・文化財学芸員・
文学部 歴史文化学科 歴史学専攻 1997年3月卒業）

歴史をお金で買うことはできない。貴重な知識で地域社会に貢献。

—（岡島さんと大嶋さんに）天理大学の教員からどのような指導を受けましたか。

岡島：学生時代は、津藩の領地の無足人という半士半農の身分について卒業論文で取り扱いました。古文書を調査する必要がありましたが、担当教員だった谷山正道元教授が、無足人をやっていた家を実際に当たり、仲介してくれたおかげで学生にもかかわらず古文書を見せていただくことができました。非常に丁寧な指導をいただき、大きな影響を受けました。

大嶋：歴史を研究するうえでの基礎として、史料の信頼性を確かめることが非常に重要だと天野先生から教わりました。例えば、軍記物では参加した軍の数などは盛られていることが多くあります。「勝った方に都合良く書かれていることを念頭において調べることが重要」という先生のアドバイスを大切にしています。

—（天野准教授に）文学部での学びを通じ、学生に学んで欲しいこと、指導において大切にされていることはどのような点でしょうか。

天野：疑問を持つことですね。特に文学部で勉強していると、過去の人が積み上げてきた研究成果に対し、その通りだ、手も足も出ない…と感じることもあると思います。しかし、学生たちには「これは本当なのかな」と常に疑問を持ち、証拠を確認することが大事だと伝えています。情報を鵜呑みにせず、疑問点を見つけて、友達と話し合ったり、教員に質問したりすることを、横着せずにやれるかどうかが、大事な資質のひとつです。

—（大嶋さんに）歴史学の学びを将来の夢や仕事にどのように活かしたいと考えていますか。

大嶋：歴史は多くの人が興味を持つ話題だと思うので、皆が共通の話題にできる歴史を通じてコミュニケーションを取りながら、卒業後の職場で役立てたいと思っています。

天野：専門職に就くため、大学院に進学する学生もいますが、地元に帰り地域の活性化やまちづくりに貢献したいと、公務員や鉄道、地方銀行や信用金庫などに就職する学生も多くいます。歴史は地域に根づいたもので、どんなにお金持ちでも、その歴史を買うことはできません。文学部で身につけた貴重な知識や文章力などの総合的な力を、ぜひ社会で役立ててほしいと願っています。

岡島 永昌さん（卒業生）

ランチタイムに古墳まで散歩。他ではできない学びがここに。

—天理大学や、歴史学研究コースの魅力や特徴はどのような点にあると考えますか。

岡島：やはり少人数が最大の強みだと思います。また附属天理図書館に所蔵された沢山の古文書を使いながら学べることも大きな特徴だと感じます。

大嶋：少人数であることから先生方との距離が近くて、すぐに声をかけてもらえる点が魅力です。また先輩との距離も近いため、情報交換がしやすい点も、日々の勉強に役立っています。

天野 忠幸 准教授

天野：確かに、教員と学生の距離は非常に近いですね。教員の研究室をすぐに訪ねて、アドバイスをもらったりして、わからないことを放っておかないのが、天理大学の良いところです。また、岡島さんが話されたように、日本でも有数の図書館・博物館である附属天理図書館、附属天理参考館があり、高校の資料集に載っているような古文書も所蔵しているので、それらを使って授業を受けられる点も大きな魅力です。さらに、キャンパスに近い石上神宮や古墳を、お昼休みにぶらりと歩いて見に行く学生がいるのも、他大学にはない特徴と言えます。学生の皆さんには、4年間で好きなことにとことん没頭して欲しいと思います。［了］

COLUMN

豊かな文化財や史跡が残る大和で、学びに没頭

天理大学は豊かな文化財や史跡が残る大和に位置しています。文学部の特徴は、世界的に名高い附属天理図書館、附属天理参考館の豊富な文献・資料を駆使した実証的・臨場的な教育・研究です。特色あるカリキュラムのもとで、少人数制によるきめ細やかな指導を行っています。学生たちは歴史ある厳かな雰囲気の中で、専門性を深めることができます。何かに没頭できる4年間という時間は、人生のなかで大変貴重なものです。大好きなものへの想いに正直に、最高の環境で学んでみませんか。